

科 目 名	人間学概論Ⅳ（芸術と人間）	副題	
担 当 者	安村 清美・三政 洋一（オムニバス）		
開 講 期	後期	単位数	2 単位
		配当年次	1 ・ 2 年次
授業の概要	本講義は、人間の芸術活動がいかに「人間」を人間たらしめてきたか（いるか）について、歴史的、実践的な観点から探究することを目的とする。特に、人間存在そのものである身体を対象とする舞踊学、美術解剖学領域の研究を通して、時空間における芸術の表現と伝達の関係性を考察し「人間の芸術性」及び「芸術の人間性」について検討していく。 安村担当の講義では、「人はなぜ踊るのか、舞踊はなぜ人間社会に存在し続けているのか」という問いについて、歴史と地域の中で生成され創造・伝承されてきた舞踊を概観し、さらに、舞踊各ジャンル固有の芸術領域としての特殊性とその存在の意味について、芸術の表現と伝達の関係性から探究する。 また三政担当の講義では、人を主題とする様々な美術作品について、人体解剖学を基にその表現の特徴について考察していく。人間は太古から現在に至るまで人の姿・形を平面や立体にして表してきたが、殊に彫刻の分野においては歴史上、人の形を基に表した作品が主流である。人体の構造を概観しながら古今東西の美術作品、特に彫刻作品を中心にみつめて人間の芸術表現について探求していく。		
授業のねらい・到達目標	人間の芸術活動について舞踊、美術解剖学を中心に理解を深めていくことがねらいであり、次の到達目標を設定する。 1. 舞踊について ①伝承文化及び比較文化の観点から海外、日本の舞踊について理解する。 ②演じられた人間像としての芸術舞踊であるバレエについて理解する。 ③舞踊芸術の表現と伝達性との関係性について、バレエ以降の人間と舞踊について考察を深める。 2. 美術解剖学について ①人体の基本的な構造について理解する。 ②ギリシア時代の彫刻からミケランジェロ、ロダンなど西洋における彫刻家の作品を見つめ、その思想、造形上の特徴について理解する。 ③近・現代における様々な美術作品を観ていくこと人間の為す形について考えを深める。		
授業の方法・授業計画			
1	舞踊文化の概観―歴史と地域の中で生成され伝承されてきた舞踊①海外（安村）		
2	舞踊文化の概観―歴史と地域の中で生成され伝承されてきた舞踊②日本（安村）		
3	伝承文化としての舞踊の比較検討（安村）		
4	芸術としての舞踊―演じられ語られた人間像①バレエ（安村）		
5	芸術としての舞踊―演じられ語られた人間像②バレエ以降（安村）		
6	芸術としての舞踊―演じられ語られた人間像③現代（安村）		
7	舞踊芸術の表現と伝達との関係性―身体と舞踊の今日的課題（安村）		
8	「人はなぜ踊るのか」という問いについての再考（安村）		
9	美術解剖学概観―人間による人体の追求について考える（三政）		
10	造形芸術に見る人体の法則―プロポーション、バランス、リズム（三政）		
11	頭部の構造①（三政）		
12	胴体の構造②―胸部・腹部・腰部（三政）		
13	上肢の構造③―前腕・上腕・手（三政）		
14	下肢の構造④―大腿・下腿・足（三政）		
15	造形芸術における人間像（三政）		
期末			
授業に関する連絡	本授業では内容に応じ講義形式、演習形式で授業を行う。演習では、履修生に課題を課することがある。		
評価方法及び評価基準	レポート（50%）、および発表（50%）に基づいて総合的に判断する。		
事前・事後学習の内容	事前学習：シラバスを確認し、授業に関わる内容について予習すること。事後学習：学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。		
履修上の注意	芸術に関心を持ち、意欲的に授業に臨むこと。		
テキスト	「ダンス・バイブル―コンテンポラリー・ダンス誕生の秘密を探る」乗越たかお、2010、河出書房新社 その他授業時にプリントを配布する。		
参考文献	「考える身体」三浦雅士、1999、NTT出版 「アーティストのための美術解剖学」ヴァレリー・L・ウインスロウ、2013、マール社		